

指標	指標の説明	検証の方法	目標値	策定時	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	その他実績・今後の方向性
● 柏市内のバス運行本数	施策の実施状況を運行本数の推移、施策による効果を利用者数で継続的に施策の状況を確認する。	バス事業者より提供されるデータ、資料より整理する。	3,500本/日以上	3,503 本	3,581 本	3,590 本	3,533 本	3,461 本	3,410 本	・アフターコロナの利用動向を注視しつつ、パターンダイヤの検討等、利便性の向上に努める。
● バス利用者数			約1,890万人/年以上（現況よりも5%以上の利用増加を図る。）	18,000,000 人	18,535,880 人	19,769,838 人	16,441,350 人	14,413,182 人	15,769,907 人	
● 企業バス等と連携した地域数	施策の実施状況として連携をした地域数を把握する。	企業バスとの提携、運行状況を整理する。	企業バス等と連携した地域数：4地域（北部・中央・南部・東部で連携する。）バス路線と重複しないルートを行なう企業バスと連携し、市内各地域（北部・中央・南部・東部）の移動手段確保を図る。	なし	なし	なし	なし	通学バスの有効活用方法を検討	なし	・東大シャトルバスが自動運転の実証実験を継続中 ・各企業バスの運行状況を整理し、周知等の検討をおこなう。 ・空白不便地域の移動手段を確保するための1つの手段として検討
● ジャンボタクシー利用者数	施策の実施状況をコミュニティ交通の利用者数から継続的に確認する。	コミュニティ交通事業者より提供されるデータ、資料より整理する。	コミュニティ交通利用者：約52,400人/年以上（現況よりも5%以上の利用増加を図る）	41,135 人	40,990 人	39,497 人	21,450 人	28,230 人	32,465 人	・R5.2.1からルート・ダイヤを変更
● カシワニク利用利用者数				8,766 人	9,881 人	9,663 人	8,444 人	10,555 人	11,508 人	
● 公共交通空白不便地域の圏域	公共交通の導入による公共交通空白不便地域の変化を把握する。	バス事業者、鉄道事業者などより提供されるデータ、資料より整理する。	圏域：24.3%以下にする 可住地域内の公共交通空白不便地域解消を目指す。	24.3 %	24.3 %	24.3 %	24.3 %	24.3 %	24.3 %	・利根町会「とねっこタクシー」3年目 ・弥生町会「やよいタクシー」R5年7月から実証運行開始 ・町会長会議にて買物支援タクシーの情報発信を行った。ガイドライン作成予定
● 駅前広場の乗換え環境整備	施策の実施状況として整備事業数を把握する。	駅前広場の整備状況から施策の実施状況を把握する。	駅前広場の待合環境整備駅数：3駅 ※市内全駅で上屋、ベンチ等を整備する。	未整備 上屋は2駅で整備済	未整備 上屋は2駅で整備済	未整備 上屋は2駅で整備済	未整備 上屋は2駅で整備済	ベンチは2駅で整備予定 上屋は2駅で整備済	ベンチ：3駅で整備済 上屋：2駅で整備済	・R5年度：増尾駅で上屋を設置予定 ・今後、利用状況等を見ながら未設置の駅に関しては、設置箇所を検討していく
● ICTを活用した情報案内板の整備数	施策の実施状況として整備事業数を把握する。	情報案内板の整備数から施策の実施状況を把握する。	情報案内板の整備数：4個	3 個	3 個	3 個	3 個	3 個	4 個	・柏駅東口にデジタルサイネージ導入済 ・情報案内板のみに限らず、運行情報の周知について進める
● ノンステップバス導入率	ノンステップバス、ユニバーサルデザインタクシーの導入台数を整理することで車両バリアフリー化の状況を把握する。	バス、タクシー事業者より提供されるデータ、資料より整理する。	ノンステップバス導入率：90%を目指す	87.1 %	87.2 %	87.2 %	88.2 %	88.2 %	87.7 %	・利用しやすい車両の導入について、引き続き促進していく。
● ユニバーサルデザインタクシー導入率			ユニバーサルデザインタクシー導入率：3%を目指す	3.0 %	7.2 %	10.9 %	16.0 %	20.1 %	22.7 %	
● タクシープールの導入 柏駅東口交通広場外の客待ちタクシー台数	柏駅東口における円滑な交通流を阻害する客待ちタクシーの状況を把握する。	柏駅東口でのショットガン方式のタクシープール導入に関する状況を整理する。	柏駅東口交通広場外の客待ちタクシー台数：0台 社会実験の結果を踏まえ、恒久的に利用出来るタクシープールを導入することで、交通広場外のタクシー待機列解消を図る。	-	-	-	-	-	-	・アフターコロナの状況を見極めながら柏駅東口交通広場のあり方も含めて検討していく。
● 周知施策実施状況	周知活動から施策の実施状況を把握する。	市による周知施策を整理する。	バスマップ配布：2万部	20,000 部	20,000 部	20,000 部	20,000 部	20,000 部	20,000 部	・利用者目線でのマップ作成を継続して実施していく
			小学校でのモビリティマネジメント教室の実施：全校	- 校	6 校	6 校	0 校	0 校	0 校	・小学校2年生を対象としたバス乗り方教室。新型コロナウイルスの影響で実施を見合わせていたが、令和5年度から再開予定。
● CO ₂ 削減量	施策の実施による効果として、自動車交通から公共交通に転換した場合の効果を示す。	立地適正化計画「施策・誘導方針3：居住地と拠点地域を結ぶ利便性・効率性の高い公共交通網の形成」または「柏市低炭素まちづくり計画」を参考に整理する。	CO ₂ 削減量：6,632t-CO ₂ /年	なし	-	-	-	-	-	「柏市低炭素まちづくり計画」にて数値未集計
○ 柏市の住みやすい理由として「公共交通機関の充実」と評価している割合	施策実施に関する総合評価として把握する。	柏市民意識調査を用いて整理する。	評価割合：40% (「柏市地方創生総合戦略」での結果を考慮する。)	32.2 %	30.6 %	32.1 %	35.0 %	- %	(参考)36.6 %	※R4年度版から質問の大幅な見直し 柏市の取組への満足度について>市内移動がしやすい交通網（公共交通・道路）の整備 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた“満足”の割合が36.6%